

グローバルな人材育成プログラムと日本語教育

-2014 年度京都外国語大学の日本語教育関連の活動を中心に-

坂口昌子（京都外国語大学）

中西久実子（京都外国語大学）

【要旨】

京都外国語大学では、多言語・多文化社会に対応できる人材を育成するための多様な体験学習型プログラムを提供している。本稿では、まず京都外国語大学日本語学科のカリキュラムの概要を示す。それから、京都外国語大学におけるグローバルな人材育成の概要を、2014 年度の日本語教育関連の 2 つの体験学習プログラムと、英語を重視した 2 つのプログラムに焦点を当てて報告する。日本語教育関連のプログラムとしては、1) 日本語教育を専攻する学生がインターンとして海外の教育機関に出向き、現地の日本語学習者に日本語指導をおこなう「海外日本語インターンプログラム」、2) 日本語教員をめざす学生がタイ、ハワイなどの協定校の日本語学習者との日本語による Skype セッションを通し、共に学ぶプロジェクト「TLJ(Talk and Learn Japanese)」などがある。そして、英語を重視した 2 つのプログラムとしては、3) 航空業界をめざす学生に向けたエクステンション講座「エアラインスタディプログラム」、4) 次世代リーダー育成プログラムなどがある。どのプログラムにおいても学生が主体的に参加し、ときにはマネジメントにも携わるようにプログラミングされているので、問題発見能力・問題解決能力が養われる。

1. 京都外国語大学外国語学部日本語学科の概要

京都外国語大学は 1947 年に設立され、2017 年に創立 70 周年を迎える大学で、日本語学科は 1991 年に新設された学科である。日本語学科の関連組織としては留学生別科や大学院があり、インターンプログラムや PBL(project based subject)ではこれらの関連組織の学生との協働学習もおこなわれている。留学生別科は 2013 年度では 85 名が在籍している。ここでは、予備教育だけでなく、京都でなければ体験できない内容の短期プログラム等も夏の祇園祭時期などに用意されている。

大学院の実践言語教育領域（実践言語教育コース）には日本語教育を専門とする研究・教育分野があり、日本語学科に関連する研究分野でいえば、2014 年度は博士前期課程 33 名（総数 77 名）・博士後期課程約 3 名（総数 11 名）が在籍しており、活発な研究・教育活動がおこなわれている。

日本語学科では、「日本語教育・日本文化・日本文学」の 3 つを軸にした教育・研究がおこなわれている。学部生として在籍するのは 1 学年約 80 名（うち外国人留学生約 20 名）で、日本語教師・国語教師などをめざす学生が、日本はもとより世界各地から集まっている。母語としての日本語を専門的に学び直す日本人学生と、外国語として日本語を学ぶ外国人留学生が共に学べる貴重な学習環境が設定されている。そのため、外国人留学生と日本人学生との接触場面も多く、国際感覚と多文化共生力が普通の学生生活の中で自然に培われていく。

2. 京都外国語大学外国語学部日本語学科のカリキュラム

日本語学科では、日本語教育、日本文化、日本文学を軸に以下のような科目が設定されている。これらの科目で日本に関する基礎的な知識を修得したうえで、次節で紹介する活動体験型のプログラムに参加していく。

これらの科目の多くは、日本語を母語とする学習者と、外国語を母語とする学習者が一つのクラスの中で学ぶものである。共に学ぶことでお互いの弱点を補い合うことが可能であり、国際的な友人関係を作っていくことが可能になる。

その一方で、日本語を母語としない学習者、または2言語話者（2言語中、1つの言語は日本語）に対する学習者に対して行っている日本語教育の科目も多い。今までに日系ブラジル人の学生、両親のどちらかが日本人で外国生まれの学生、両親ともに日本人だが、外国育ちの日本人学生、高校から日本で生活している外国籍の学生など、さまざまな日本語学習歴を持つ学生が、日本語学科に在籍し、教養ある社会人としての日本語を身につけてきた。それらの学生のニーズにこたえるため、2014年度から留学生用の日本語のクラスでは、能力別のクラス編成で、日本語力を高める努力をしている。特に1年次では、日本語の運用能力を高めるとともに、日本の高校を卒業するレベルの教養にかかわることば（人文学・自然科学などの基礎レベル）も日本語で身につけるために、言語分野、科学分野、心理学分野などの分野別に学習を進めている。

<日本語教育関連の科目>

日本語教育の基礎知識Ⅰ・Ⅱ、実践日本語教育Ⅰ・Ⅱ、日本語教育文法Ⅰ・Ⅱ、日本語教授法、日本語教育評価法、日本語教育学演習Ⅰ・Ⅱ、日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ、日本語教育研究ゼミⅠ・Ⅱなど

<日本文化の科目>

日本文化の基礎知識Ⅰ・Ⅱ、日本の伝統文化Ⅰ・Ⅱ、日本文化特論Ⅰ・Ⅱ、京都文化論、京都モノ学、京都モノ研究、文化商品論、京都モノ・コト探究、日本文化演習Ⅰ・Ⅱ、日本文化研究ゼミⅠ・Ⅱ、企業文化論など

<日本文学の科目>

日本古典文学Ⅰ・Ⅱ、日本文学演習、日本近代文学Ⅰ・Ⅱ、日本文学特論Ⅰ・Ⅱ、日本文学研究ゼミⅠ・Ⅱなど

<日本語関連の科目>

日本語学の基礎知識Ⅰ・Ⅱ、日本語分析演習Ⅰ・Ⅱ、意味論・語用論入門、社会言語学、対照言語学、漢字文化論Ⅰ・Ⅱ、日中対照言語学、日本語のスキル1～6、現代日本語研究ゼミⅠ・Ⅱなど、（留学生のための）日本語など

<国語教員養成関連の科目>

漢文学、和漢比較文学、書道、教育実習指導、国語教育研究ゼミⅠ・Ⅱ、教育の課題（一般）、教職研究（一般）、教育社会学（一般）、学校教育支援活動演習（一般）など

3. 京都外国語大学のグローバルな人材育成のための特色あるプログラム

ここでは、京都外国語大学におけるグローバルな人材育成の概要を、日本語教育関連の2つの活動と、という英語を重視した2つのプログラムに焦点を当てて報告する。

3. 1 日本語教育関連のプログラム

3. 1. 1 「海外日本語インターンプログラム」

京都外国語大学では、日本語教員養成プログラムの受講者を対象に「海外日本語インターンプログラム」を提供している。このプログラムでは、日本語教育を専攻する学生がインターンとして海外の教育機関に出向き、現地の日本語学習者に日本語指導をおこなう。日本語教員をはじめ、さまざまな分野で指導者となるべき人材を育成するのが目的である。研修先としては、長期（半年～1年間）では、オランダ国立南大学、広東外語外貿大学（中国）、仁川大学校（韓国）の3大学があり、短期（3週間）では、オーストラリア国立大学（オーストラリア・キャンベラ）、釜山外国語大学校（韓国）、ハワイパシフィック大学（アメリカ・ハワイ州）、カピオラニ・コミュニティカレッジ（アメリカ・ハワイ州）、国立マレーシア科学大学、東呉大学（台湾）、京進ラチャマンガラ日本語センター（タイ）などがある。

短期プログラムは、夏休み（オーストラリア、プサン、マレーシア、タイ）と春休み（アメリカ、台湾）に実施している。

3. 1. 2 「TLJ(Talk and Learn Japanese)」

京都外国語大学では、日本語教師をめざす学生が、タイやハワイの協定校で日本語を学ぶ学習者と、日本語による Skype セッションを通し、共に学ぶプロジェクトを提供している。ペアになった学生と時間を決めて、毎週 Skype で会話をし、交流するなかで相手の文化への発見、自分の文化への気づき、異文化交流や日本語を教えることの楽しさや難しさを体感する。

本学では、日本語を教える機会がさまざまな形で提供しているが、このプロジェクトもその一つである。このプロジェクトを通して、日本語教師志望の学生は、短期間の教育実習ではわからない学習者の成長、多様な学習者に対する対応の方法などを体験的に学ぶことができる。また、困難にぶつかった時にはミーティングで学生同士、意見交換をおこない、問題を解決している。

このプログラムは、タイやハワイの協定校のほか、短期間では、東呉大学（台湾）、ザグレブ大学（クロアチア）などの大学ともおこなっている。

3. 2 英語を重視したプログラム

3. 2. 1 「エアラインスタディプログラム」

京都外国語大学では航空業界をめざす学生に向けたエクステンション講座として、「エアラインスタディプログラム」を提供している。航空会社等との提携により、実際に訓練を行う空港・研修施設で、客室乗務員やグラウンドスタッフになるための本格的な講習・訓練が受けられる。実践的な知識とスキルを身につけることで、航空会社に就職するという「あこがれ」を「現実的なゴール」に変えて実践と知識をたしかなものとしてつかむことができる。2013年度は客室乗務員をめざす人の研修先はオーストラリアブリスベン、マレーシア航空で、グラウンドスタッフをめざす人の研修先は、JAL 香港、JAL シンガポール、JAL 大連、JAL パリ、JAL フランクフルト、JAL ヘルシンキであった。

3. 2. 2 「次世代リーダー育成プログラム」

これも2014年から始まったもので、世界の多様性を受容し、新たなタイプの貢献型リーダーを育成することを目的にしている。卓越した英語による「コミュニケーション力」と「交渉力」、多言語・多

文化社会に対応できる人材を育成する。プログラムの授業は英語でおこなわれるが、海外研修で体験学習をおこなったり、PBL(Project Based Learning)で企画力・マネジメント力を培ったりすることができる。

入学時に TOEIC650 点以上や、IELTS5.5 以上といった基準で選抜された学生のみが受講できる。科目としては、英語で基本的な教養を身につけたり、交渉力を学んだりというものがある。

4. おわりに

京都外国語大学では外国語の力、母語の力を磨く教育を行っている。これらの語学力はコミュニケーションのツールであるだけでなく、文化やビジネスの交流のツールにもなり得る。また、建学の精神である「言語を通して世界の平和を」を実現すべく、多くの外国語を身に付けつつ、他の価値観、文化に寛容で、積極的に相手を認め合うという精神を養う教育を目標としている。これらは昨今の世界情勢を鑑みる上でも、最も必要な国際的素養であろう。机上の学問だけではなく、10代20代の多感な時期に、世界中から来ている留学生たちと現実のコミュニティで身近に接することで、多言語・多文化社会に対応できる力を自然に身に付けることが可能である。

さらに本学では、在学中のみならず、卒業後を見据えたキャリア教育の一環として、組織、コミュニティに貢献できる人材を育成するための多様なプログラムが提供されている。それらは、自己発見のプログラム、企業でのインターンシップ、教師を目指すための互助グループ、キャリア教育科目、学生同士のピアサポートコミュニティや、その研修のためのリーダーシップ研修などである。

どのプログラムにおいても学生が主体的に参加し、ときにはマネジメントにも携わるようにプログラミングされており、問題発見能力・問題解決能力が研ぎ澄まされていくという特徴がある。